



文化学園リポジトリ

Academic Repository of BUNKA GAKUEN

服飾文化共同研究拠点／文化ファッション研究機構

Joint Research Center for Fashion and Clothing Culture / Bunka Fashion Research Institute

文化学園大学

Bunka Gakuen University

文化服装学院

Bunka Fashion College

文化ファッション大学院大学

Bunka Fashion Graduate University

文化外国語専門学校

Bunka Institute of Language

Title	MSC創造的構えテストの作成
Author(s)	伊賀, 憲子
Citation	文化女子大学紀要. 服装学・生活造形学研究 29(1998-01) pp.39-52
Issue Date	1998-01-31
URL	http://hdl.handle.net/10457/2426
Rights	

MSC創造的構えテストの作成

伊 賀 憲 子*

The Construction of the Mental Set for Creativity Test (MSC-T)

Noriko Iga

要 旨 ギルフォード (Guilford, J.P.)¹⁾ は、創造性の因子として、問題への敏感さ、流暢性、独創性、綿密性、再定義力の6つの因子をあげている。一方、ウェルトハイマー (Wertheimer, M.)²⁾ は、創造的思考について、問題そのものの発見を含んだ高次の生産的思考としてとらえ、試行錯誤的ではなく、洞察によってなされるとしている。筆者を含む早稲田大学創造性研究会³⁾ では、この創造的思考に関する代表的な2つの考え方を参考に、TCT創造性検査6テストを作成し、創造的思考の評価を行っている。ところで、創造性の評価には、創造的活動そのものを評価する方法と、創造的活動への方向づけを行う創造的パーソナリティを評価するという2つの方法が考えられる。そこで、筆者らは、MSC創造的構えテスト (Mental Set for Creativity Test: 略してMSC-T) を作成し、創造性をパーソナリティ変数の面からとらえることを試みた。さらに、ウィークス (Weeks, D.J.) らによって、エクセントリックなパーソナリティが創造性と関連があるようであるということが示唆されたことから、これまでのMSC創造的構えテストを改訂し、TCT創造性検査と共に、検討を重ねている。

I. は じ め に

創造性 (Creativity) とは何かという、創造性の定義および概念については、多種多様であるが、それらの中には、ひとつの共通した概念が存在すると考えられる。すなわち、「創造性とは、ある目的達成または新しい場面の問題解決に適したアイデアや新しいイメージを生み出し、あるいは社会的・文化的に、または個人的に新しい価値あるものを作り出す能力、および、それを基礎づける人格特性である」とする恩田彰³⁾ の説に代表されるものである。この定義・概念の中には、新しいアイデアや新しいイメージを作り出す能力、すなわち、創造的技能 (創造的活動) と、それを基礎づける人格特性 (パーソナリティ) の2つの要素が含まれている。そして、創造的技能は、創造的思考力が重

要な基礎となっている。そこで筆者らは、創造的思考の評価について、TCT創造性検査 (Test for Creative Thinking) を開発し、独自の評価基準を設定している。その詳細については、すでに本学研究紀要第27集で報告済みであるが、ここで基本点のみを述べる。

TCT創造性検査は、言語性3テスト (用途・原因推定・標題づけ) と非言語性3テスト (四点描画・想像力・図案発見) の計6テストから成る。採点の基となる基本カテゴリーは、課題依存 (Task-dependence: d), 課題変形 (Task-modification: m), 同態再生 (Homomorphosis: o), 異態再生 (Heteromorphosis: e) の4つである。判定・評価については、まず、得られた個々の反応について、4つの基本カテゴリーに分類し、さらに、被験者を基本カテゴリーのパターンによって、硬直型 (タイプR: Rigid), 流暢型 (タイプF: Fluently), 柔軟型 (タイプX: Flexible), 理詰型 (タイプM: Meticulous)

* 本学教授 造形心理学

Remote)、閃き型(タイプG: Gifted)の5つのタイプに分類するものである。

ところで、創造性の定義・概念の、もう1つの要素である人格特性について、恩田⁴⁾は、その要因として「自主性・衝動性・固執性・好奇心・開放性・内省的傾向・純粋な心」をあげている。そしてさらに、創造性的人格特性の特徴について、次の8項目にまとめている。①自己統制(自己の心身、自己の感情の統制)、②自発性(自分の意志で積極的に行動する傾向)、③衝動性(心的エネルギーの強さ・意欲の強さ)、④持続性(心的エネルギーの持続性)、⑤探究心(知的探究心・新しい経験、成就の欲求)、⑥精神集中力(1つのことに精神を集中する)、⑦独自性(他の人とは違った考えや行動をする傾向)、⑧柔軟性(いかなる環境や状況においても積極的に適応していく態度)の8項目である。

そこで筆者らは、創造性に関する人格特性の要因のうち、特に教育可能な創造的構えをとりあげ、MSC創造的構えテストを作成した。このMSCテストは、創造的活動を生み出す為の心的構えを測定するものであることから、具体的な創造性発揮の場面と考えられるTCT創造性検査とは、密接なつながりがあるものと考えられる。

II. MSC創造的構えテスト(Mental Set for Creativity Test: MSC-T)の作成

創造性が人格的変数と密接に関係していることは、すでに指摘したが、筆者らがとりあげる個人的条件も、それに近いものであるが、人格そのものではない。創造性を発達させようとする教育において、その対象とされる教育可能な領域は、種々な活動領域においてみられる個人的様式であり、また、それらの様式の個人的な結合であろうと考えられる。筆者らは、これを心的構え(MSC)と呼ぶことにし、それを測定する為の質問紙を考案した。質問項目の選定は、本研究者たちが、これまでの研究や日常的

な体験の中から、創造性や独創性に関わると思われる活動様式を選択し、平易な文章に改め、計110項目を作成した。それらの質問項目について、筆者らが分類した結果は、次の通りである。

知的活動面(15項目)、社会的活動面(15項目)、自尊傾向(14項目)、持続傾向(10項目)、思考傾向(29項目)、課題解決領域(27項目)。

これらの質問項目について、都内大学生男女計70名を対象として実施し、得られた回答にもとづいて算出した110×110の相関マトリックスを因子分析し(直接バリマックス法)、因子の抽出を行った⁵⁾。その結果、第1因子は、「複雑なほどやりがいを感じる」「冒険をしてみたくなることがよくある」「なにかをやりとげた後には、いつも不満感が残る」等の項目によって特徴づけられ、合理性、客観性を伴った「向上性」の因子と考えられた。

第Ⅱ因子は、「他人の成果がなにか利用できないかどうかを考えることがある」「他の分野の情報でも、時に応じて利用しようとする」「ある方法や用途が、別の所に応用できないかどうかをよく考えてみることもある」等の項目に代表されるように、思考の柔軟さ、知識の広さへの志向を含んだ「探究性」の因子と考えられた。

第Ⅲ因子は、「確固たる信念をもっている」「自信をもって自分の考えを主張できる」「新しい考えを出して人をリードしていくのが好きである」等の項目に正の高い負荷をもち、「自信たっぷり」に反対意見が出されると、つい考えがぐらついてしまう」「笑われたり非難されたりするのではないかと思って、自分の意見を言わないでおくことがある」「失敗するのを恐れて目標を低くすることがある」等の項目に負荷をもつことから、「自己信頼性」の因子と考えられた。

第Ⅳ因子は、「いったんこうだと思ひ込むと、なかなか自説をまげない」「自分と反対の意見を述べる人がいると、反論したくなる」「なにかをして他の人があきらめたりすると、ますま

すやる気が起こる」等の項目に示されるように、他人に負けたくないとする「競争性」(挑戦性)の因子と考えられた。

第V因子は、「物事にすぐ熱中し、しかも粘り強い方である」「なにかする時は、自分が納得するまでやり直し、最後にはきちんと仕上げる」等の項目に代表されるように、「持久性」の因子と考えられた。

この段階では、以上の5因子であったが、その後の検討の結果、現在では第VI因子として、「いろいろと違った意見がある場合、各々の立場から物事を考えることができる」「いつもいろいろな角度から物事をみて、判断しようとする」等の項目に示されるように、「慎重性」の因子が加えられている。なお、MSCテストの質問項目は、付表1として示した110項目である。

Ⅲ. MSCテストに関するこれまでの検討

MSCテスト作成後の検討としては、性差、発達の検討、TCT及びその他の外部基準との関連、概念的妥当性、信頼性の検討、パーソナリティ特性との関連、等がなされてきた。ここでは、それらのうち、TCTとMSCとの関連に関するもののみ要点を触れておくことにする。

1. 都内大学生男女計70名を対象とし、MSCの因子とTCTの各尺度(この時点では、TCTの評価尺度は、流暢性(F)、柔軟性(X)、独創性(O)、稀少性(R)、巧妙性(C)、遠隔性(M)の6尺度であった。)との関連を検討した結果では、次のような結果を得ている。

6)

向上性因子(客観性)：TCT-A型(言語性テスト)との相関は少なく、標題づけテストのC(巧妙性)とだけ、有意な相関がみられた。TCT-B型(非言語性テスト)との関連性は強く、想像力テストのF(流暢性)、X(柔軟性)、O(独創性)、C(巧妙性)と有意であり、図案発見テストのF、X、Oと有意な相関がみ

られた。

探究性因子：TCT-A型、B型とも関連性が少なく、A型の標題づけテストのC、B型の想像力テストのX、図案発見テストのCと有意な相関がみられるのみであった。

自己信頼性因子：TCT-A型では、用途テストを除いて、何らかの相関がみられた。原因推定テストのF、O、C、M(遠隔性)と有意。標題づけテストのF、O、Cと有意。B型では四点描画テストのF、想像力テストのX、F、O、Cと有意。図案発見テストのF、O、Cと有意な相関がみられた。

持続性因子：TCT-A型、B型ともに関連は全くみられなかった。

全体に、MSCと用途テスト・四点描画テストとの相関は低い、他の4テストとは、ある程度の相関が認められることが判明した。

2. 次に、MSCテストの妥当性の検討と、創造性発揮のプロセス、あるいはメカニズムを知るという2つの目的で、TCT検査とMSCテストとの関連について、高校性男女計119名の検査結果をもとに検討した⁷⁾。検査課題は、TCT-A型のうち用途テストと、B型のうち想像力テスト。さらに、MSCテストを同一被験者に実施した。得られた反応から、TCT検査の各テストごとの、流暢性、柔軟性、課題依存、課題変形、同態再生、異態再生の各得点とMSCテストの総点との相関をみた。結果は、次の通りであった。

用途テストにおいては、柔軟性のみ、MSC総点との間に相関がみられ、その他の下位尺度とは相関の有意性はみられなかった。特に、基本カテゴリーの各カテゴリーとMSC総点との相関は、きわめて低い値にとどまった。

想像力テストでは、MSC総点との相関は、柔軟性より、むしろ流暢性が高く、基本カテゴリーとの相関では、課題依存との間に高い相関がみられ、他の尺度とは、いずれも有意性は認められなかった。

この試みから、流暢性、柔軟性といった下位尺度のちがひよりも、用途テスト、想像力テ

トといった下位テストのちがいによって、関連するMSC項目が異なってくるということが見いだされた。また同時に、いくつかの項目は、下位尺度、下位テストを問わず、TCT検査とある程度の関わりをもつことも見いだされた。

3. TCTとMSCとの関連について、特に、TCTの反応の質的側面が問われるHタイプの出現との関連を中心に、検討がなされた⁸⁾。大学生男女計140名を対象とし、TCT検査とMSCテストを実施した。MSCテストについては、得られた結果を得点化し、自己信頼性・客観性・細心さ(慎重性)の項目の合計点と、挑戦性・持久性・探究性の合計点に基づいて、いずれの数値も高いものを自己実現型、いずれも低いものを自信喪失型、いずれかが高く、いずれかが低いものを、それぞれ気負い型、安楽型として分類した。そして、TCT検査の反応について、いわゆる常識的枠組を打破した発想での課題解決が求められるHタイプ(同態再生:Ho, 異態再生:He)の反応の出現傾向と、前記4つの型との関連性を検討した。出現者数からみると、自己実現型と安楽型では、四点描画、用途、標題づけでHoの出現者が多くみられ、気負い型と自信喪失型では、四点描画に比較的多くみられた。Heの傾向では、やはり自己実現型において、他の型に比べて出現者数が多く認められるという結果であった。

IV. MSC創造的構えテスト改訂の試み

本研究会のメンバーである黒岩誠⁹⁾は、「創造的構えとパーソナリティ特性との関連」について検討している。本稿のIIで述べたような想定により作成したMSCテストが、パーソナリティ特性とどのような関連をもつのか、M-G本明・ギルフォード性格検査を用いて検討したものである。その結果を要約すると、MSCと関連を示したM-Gパーソナリティ特性は、MSCの6つの因子中4つの因子と、攻撃性、抑うつ性が有意な相関を示した。このことは、自己主張の強さや孤独傾向といった行動特徴と関

連が認められることが示されたことになる。また、3つの因子に有意な相関を示したパーソナリティ特性は、気楽さと、神経質傾向で、衝動性や神経の細かさといった行動特徴との関連が認められたことになる。これらの4つの傾向が創造的構えの主要なパーソナリティ特性と考えられるというものであった。

さらに、もと科学者でジャーナリストのイーナ・ラドウンスカヤ¹⁰⁾は、その著書「狂気と創造性」の中で、次のように述べている。「新発見をする人は必ず、その気質に反抗的で狂氣的なところがある。ここでいう狂気は病的なそれではない。新しい見解が、それまでであった考え方と本質的に異なっている、という意味である。

ところが、ウィークス(Weeks,D.J)¹¹⁾らは、その著書「エクセントリックス」の中で、エクセントリックなパーソナリティが、創造性と関連があるということを示唆している。エクセントリックは多くの人々が用いている語であるにもかかわらず、その意味は明確でなく、正確な定義はない。エクセントリックといえば、すぐに使われる通俗的な形容詞に、協調的でない、反抗的、気まぐれ、といったものがあるが、そうした人々のパーソナリティについては、ほとんど知られていない。そして、他者からみれば、その行動は一般の常識に反していることが多い。異常心理学の領域では、認められている行動基準あるいは大方の合意ができていない現実からはずれたこと、ととらえられている。しかし、一方で、エクセントリックな面は正常な人間の誰もがもっているものであり、その表われ方も多様であるといえる。ウィークスらは、「自らエクセントリックと思ひ、あるいは、そう思われるような人の思考過程やパーソナリティを理解するためには、自分がいる環境の中でうまくやる上で役に立つ、普通とは違う思考の手立てを、何とかして創造したり、見つけたりしている人々を研究する必要がある」と指摘している。さらに、「エクセントリックさが、おどろくほど独創的な芸術的技術的突破口を思いつく能力

にプラスの形で結びつくとなれば、常識や概念にとらわれない水平思考だけでなく、それが自由に開花する条件や因子を理解すべきである」としている。また、エクセントリックな人たちは、思いもよらないようなことを考える傾向があり、創造的な動きの先駆けであるかもしれないと考えた。すなわち、エクセントリックな人たちの中には、程度の差はあれ、創造的な思考のモチ主が、普通より高い比率でいるという可能性を示唆している。

以上のことから、本研究者たちは、ウィークスらが開発したエクセントリック傾向自己判定テスト（EPDST）100項目を参考にして、従来のMSCテストの改訂を試みた。（EPDSTの質問項目は、付表2に示した。）

MSCテスト改訂の試み¹²⁾として、都内私立大学生男女202名を対象とし、まず、従来のMSCテスト110項目とエクセントリック傾向自己判定テスト100項目による検査を実施し、採点した。因子分析の結果、MSCテスト110項目からは、客観性、慎重性、自己信頼性、挑戦性、持久性、探究性の6因子が得られた。また、エクセントリック傾向自己判定テスト100項目からは、挑戦性、自己本位性、知的探究性、対人消極性、自己主張性、慎重性の6因子が得られた。因子の対応関係は、表1の通りである。

表1 因子対照表

MSC-T	エクセントリック・テスト
客観性	自己本位性
慎重性	慎重性
自己信頼性	対人消極性
挑戦性	挑戦性
持久性	自己主張性
探究性	知的探究性

次に両テストで対応関係が認められる因子を合

体させる形で、因子別質問項目を抽出し、6尺度（因子）各12項目、合計72項目から成るテストを作成し、前記資料に基づいて項目分析、因子分析を行った。その結果、項目分析では、整合性のない項目は、どの因子にもみられず、また、抽出された因子は、第1因子が挑戦性、第2因子が客観性、第3因子が自己信頼性、第4因子が慎重性であった。そしてさらに、不適当と思われる項目を削除して、1因子（尺度）8項目、計48項目から成るMSCテストにまとめた。上記6因子を整理して、自己信頼性、客観性、慎重性の3つをパーソナリティ尺度とし、挑戦性、探究性、持久性の3つを動機づけ尺度とした。

なお、改訂後のMSCテストの質問項目は付表3に示した48項目であり、プロフィール（図1参照）については、回答を3件法（はい=2、?=1、いいえ=0、ただし逆転項目はこの逆）で求め、5段階評定（1～5）を行っている。

		評 価				
尺 度 名		1	2	3	4	5
性 格 尺 度	自己信頼性	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	客 観 性	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	慎 重 性	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
動 機 づ け 尺 度	挑 戦 性	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	探 求 性	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
	持 久 性	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

図1 MSC（創造的構え）検査プロフィール判定型

さらに、改訂MSCテストとTCT検査との関連について、検討を行った¹³⁾。全体的傾向を把握するために、TCT検査の下位テスト別、発想タイプ別MSCテストの尺度得点（この集計では、はい=1、いいえ=0、ただし逆転項目はこの逆）の平均値を算出し、その高いものから順に順位をつけた結果が表2である。どの下位テストの場合も、大体において、自己信頼性、挑戦性、探究性、持久性の尺度において、その順位が、G（閃き型）、M（理詰型）の順となっている。一方、客観性と慎重性の尺度に

においては、R（硬直型）、F（流暢性）、あるいは、F、Rの順となっていることが多いといえる。従って、客観性尺度と慎重性尺度は、創造的構えの点では、あまり関連がないことがうかがえる。そこで、創造的構えとしては、パーソ

ナリティ尺度では、自己信頼性のみが、動機づけ尺度では、挑戦性、探究性、持久性が関連のある重要なものであるということが考えられる。なお、信頼性とこれ以外の妥当性の検討については、現在行っているところである。

表2 TCT創造性検査下位テスト別発想タイプ別MSC創造的構えテストの尺度得点の平均値の順位
(最高得点を1位とする)

TCT下位テスト		川途					原因推定					課題づけ					四点描画					想像力					図案発見				
MSC 創造的構えテスト	発想 タイプ	G	M	X	F	R	G	M	X	F	R	G	M	X	F	R	G	M	X	F	R	G	M	X	F	R	G	M	X	F	R
	パーソナリティ尺度	自己信頼性	1	2	5	4	3	1	5	2	3	4	3	1	5	2	4	2	5	4	1	3	1	2	4	3	5	4	1	3	2
客観性		3	4	5	2	1	5	1	3	2	4	5	1	4	3	2	4	2	5	1	3	1	4	2	5	3	2	1	3	4	5
慎重性		5	3	4	2	1	5	2	4	3	1	1	4	2	5	3	3	4	1	5	2	4	3	5	1	2	5	4	3	2	1
動機づけ尺度	挑戦性	1	3	5	4	2	1	5	3	2	4	3	1	5	2	4	2	5	1	3	4	5	2	4	1	3	4	5	1	2	3
	探究性	1	3	4	4	2	4	2	1	3	5	5	1	3	2	4	2	3	5	1	4	2	4	1	5	3	1	2	5	4	3
	持久性	4	2	3	5	1	1	2	3	4	5	1	2	5	3	4	3	2	5	1	4	1	5	2	4	3	1	3	5	2	4
	N	7	66	92	17	20	4	14	85	69	30	5	25	6	92	74	15	77	9	73	28	33	36	78	16	39	2	5	31	83	81

注) G……閃き型 X……柔軟型 R……硬直型
M……視詰型 F……流暢型

V. お わ り に

創造性とは何かという定義と概念については、これまで代表的なものについて触れてきたが、ここに、それらとは異なるとらえ方が存在する。たとえば、マズロー (Maslow, A.H.)¹⁴⁾ は、「特別な才能」としての創造性と、「自己実現」としての創造性があるという。「特別な才能」の創造性は、人類や社会にとって新しい価値があるかどうかの問題とされる。一方、「自己実現」の創造性は、人が新しい経験をするこ

とによって、自分と自分が働きかけたもの（成果）の中に新しい価値を見つけ、よりよく生きることを意味する。従来の創造性の研究をみると、「特別な才能」という意味で創造性を検討したものが多い。

また、近藤文里¹⁵⁾ は、その著書「子どもの知能と創造性」の中で、創造性は「生まれつきのもの」としてではなく、「育てるもの」としてとらえる方が妥当であるとしている。たとえば、従来の精神薄弱児の心理学的特性について検討した研究^{16) 17) 18)} では、ギルフォードが明らかにしたような創造性の因子とは相反するような特性があることが明らかにされている。まず第1

は「硬さ」である。すなわち、新しい事態に適応するのに必要な柔軟性を欠き、融通性がなく固執性が強いということである。第2は「目的志向性の乏しさ」である。つまり、ある課題を行うために見通しをたて、綿密な計画と準備、実行をすることが難しいということである。第3は「活動意欲の乏しさ」である。これは、課題の達成には集中力、持続力が必要であるが、その原動力である能動性が乏しいということである。これらの心理学的な諸特性は、ギルフォードがとらえた創造性の因子と相反するものであり、精神薄弱児には創造的思考に必要な前提がないかのように解釈される。しかし、彼らも諸特性についても、適切な指導と援助によって改善が可能であるとしている。すなわち、知能と創造性の乏しい子どもの指導も、広く人格発達の問題としてとらえなおす必要があり、適切な教育の中で、やがて社会的に新しい価値をもつという意味での創造性に発展するものと考えられる。

本研究者们は、創造性を発達させようとする教育を前提とし、教育可能な領域について、TCT検査、MSCテストを開発し、検討を重ねている。今回のMSCテストに関する試みの中でも、創造的思考あるいは創造的活動を基礎づける人格特性についても、そのとらえ方は様々であることが示された。すなわち、何ををもって創造的とするか、また、どのようにして創造的な発想になるのかについて、TCT検査、MSCテストともに、さらなる検討が必要であろう。

最後に、本稿をまとめるにあたり、早稲田大学の久米稔先生をはじめとし、早稲田大学創造性研究会の諸先生方のご指導とご助力に、心より感謝の意を表します。

注) 早稲田大学創造性研究会は、現在、次のメンバーから構成されている。(順不同)
久米 稔 (早稲田大学)

黒岩 誠 (東邦大学医学部)
高野隆一 (川越少年刑務所)
寺沢美彦 (日本福祉教育専門学校)
三島正英 (山口県立大学)
内藤美智子 (信州大学医療技術短期大学部)
吉光 清 (障害者職業総合センター)
伊賀憲子 (文化女子大学)

引用・参考文献

- 1) Guilford, J.P.: "Traits of Creativity" in Anderson, Harold H.(ed) Creativity and its cultivation, New York, Harper and Brathers (1959)
- 2) Wertheimer, M 八田部達郎訳 生産的思考 岩波書店 (1966)
- 3) 恩田彰: 創造性の研究 恒星社厚生閣 (1971)
- 4) 恩田彰: 創造性開発の研究 恒星社厚生閣 (1980)
- 5) 吉光清他: 心的構え (Mental Set for Creativity) の測定の試み 第20回教育心理学総会発表論文集 (1978)
- 6) 青柳肇他: 創造性テスト (TCT) と心的構え (MSC) との関連性について 第20回教育心理学総会発表論文集 (1978)
- 7) 高野隆一他: TCT検査とMSCテストとの関連について 立正大学保育専門学校紀要9号 (1982)
- 8) 伊賀憲子他: TCTとMSCとの関連 第54回応用心理学会大会発表論文集 (1987)
- 9) 黒岩誠: 創造的構えとパーソナリティ特性との関連 東邦大学教養紀要第15号 (1983)
- 10) I.ラドウンスカヤ 松川秀郎訳: 狂気と創造性 ラテイス刊
- 11) David Joseph Weeks with Kate Ward 松浦俊輔訳: エクセントリックス 青土社 (1993)
- 12) 寺沢美彦他: MSC (創造的構え) テストの改訂の試み そのI. 因子分析結果の検討 第63回応用心理学会大会発表論文集 (1996)
- 13) 伊賀憲子他: MSC (創造的構え) テストの改訂の試み そのII. TCT創造性検査との関連 第63回応用心理学会大会発表論文集 (1996)
- 14) Maslow, A.H: Creativity in self-actualizing people. In Anderson, H.H. (ed) Creativity and its cultivation. Harper. (1959)
- 15) 伊藤隆二他編: 近藤文里 子どもの知能と創造性 日本文化社 (1987)

- | | |
|--|--|
| <p>16) レヴィン・K 相良守次他訳：パーソナリティの力学説 岩波書店（1957）</p> <p>17) Gottschaldt, K Der aufbau des Kindlichen handelns. Beihefte zur Zeitschrift für Angewandte Psychologie (1933)</p> | <p>18) エス・ヤ・ルビンシュテイン 大井清吉他訳：ちえ遅れの子の学習活動 明治図書（1975）</p> <p>19) 伊賀憲子：創造的思考の評価基準 文化女子大学紀要 服装学・生活造形学研究第27集（1996）</p> |
|--|--|

付表1. MSCテスト

1. どちらかというと、「負けずぎらい」のほうである。
2. いろいろなことを考えるのが好きである。
3. なにかをやり遂げた後、なんとなく不満足な気持が残る。
4. 人と話をするとき、よく、たとえ話をする。
5. 仕事などは、てきぱきとするほうである。
6. なにか問題があるとき、どこに問題があるかをつかむことができる。
7. よく人と意見をかわす。
8. 人から「ねばり強い」とよくいわれる。
9. なにかを考えようとする時は、つい細かなことばかり考えてしまう。
10. 自分でなにかをしようとする時は、少し高い目標や計画を立てて、それをやり通そうとする。
11. つまらないこと（たとえばゲームなど）でも、ついむきになったり、熱中したりする。
12. なんでも自分でやってみないと気がすまないほうである。
13. みんなでなにかをしている時は、みんなと同じようにやっていないと、なんとなく落ち着かない。
14. はじめてのことをする時には、とても緊張する。
15. 自分のものの見方や考え方、判断の仕方には、かなりの自信がある。
16. なにかをする時は、一度にいろいろなことに手を出さないで、一つのことを終えてから次に移る。
17. 職員室に入っていくのはあまり好きではない。
18. なにかをしていて、うまくいかないことがあると、運がなかったとあきらめてしまう。
19. みんなでなにかをする時は、意識して、他の人とは違ったやり方や考え方をしようとする。
20. 人には絶対に負けない能力をもっている。
21. 話し合いなどでは、自分の考えを主張するよりも、人の意見に従う場合が多い。
22. いろいろと空想するのが好きである。
23. いい考えがうかぶ場所や時刻は、だいたいきまっている。
24. なにかを作りあげている時、納得できるものがなかなかできない場合が多い。
25. 自分から意見を出すよりも、人の意見に賛成や反対をしているほうが、楽である。
26. 人がいたりしたりすることについては、かなり公平に判断できると思う。
27. 関係がないと思われることでも、結びつけて考えてみようとする。
28. どちらかというと、ものごとを大ざっぱに考えるほうである。
29. どちらかというと、しっかりした考えをもっているほうだと思う。
30. 気分の転換は、かなりよくできるほうである。
31. 「カン」はいいほうである。

32. 人からほめられたり、うらやましがられたりすると、とてもうれしい。
33. 問題がむずかしくて解けない時は、考え方をいろいろと変えてみる。
34. 人の話を「うのみ」にすることがよくある。
35. ひとりで考えるよりも、多勢で考えるほうが好きである。
36. 得意になれることなら、なんでも知っておきたい。
37. むずかしいことや悩みごとは、一度に考えつめないで、少し間をおいてから、考えるようにしている。
38. 「自分は運がいい」と思うことがよくある。
39. いろいろなことに興味をもちすぎるような気がする。
40. なにか思いきったことがしたくて仕方がない。
41. いろいろなことについて、「少し変えるとどうなるかな」と思うことがよくある。
42. なにかを解いたり、作ったりしている時が一番楽しい。
43. ものごとがうまく解決しないと、なんとなくイライラしてくる。
44. 人の話などで、「なるほど」と思うことがよくある。
45. 自分の考えよりも人の考えのほうが良いと思うことが、よくある。
46. 話し合いの時など、自分の意見を強く主張するほうである。
47. むずかしいことほど、やってみたくなる。
48. その時の気分によって、ものごとを判断してしまうくせがある。
49. 「自分はだめな人間だ」と思うことがよくある。
50. 解けそうもない問題ほど、解きたくなる。
51. 人の先頭に立って、いろいろなことをするのが好きである。
52. 社会のいろいろなできごとにも、かなり興味をもっている。
53. なにかが新しく流行すると、すぐにとり入れてみたくなる。
54. いろいろと違った意見がある場合、それぞれの立場から、ものごとを考えることができる。
55. 順序だてて、きちんとものごとを考えるのは、にがてである。
56. なにかを考えついた時には、どのようにして考えついたかを、はっきりさせようとする。
57. なにか考えごとをしていて、考えがまとまりそうな時には、なにがあっても途中でやめたりしないで、考え続けようとする。
58. なにかしようとする時は、人の意見もよく聞く。
59. やり始めたことは、最後までやりとおす自信がある。
60. 自分でも「変わっているな」と思うような考え方をすることがよくある。
61. 勉強とはあまり関係のないようなことでも、いろいろと知っておこうとする。
62. なんでも人よりすぐれていたい。
63. 人がやらないこと（または、やれないこと）をやるほうが、やりがいがある。
64. やらなければいけないことは、人から言われる前に、するほうである。
65. 人にはあまり「おせっかい」はやかないほうである。
66. いろいろなことを知りたくて仕方がない。
67. 悩みごとや問題がおきると、その原因や理由がどこにあるかを、よく考えてみる。
68. 人から、「慎重すぎる」とよくいわれる。
69. 夜、寝るとき、いい考えが浮かんできて、いつまでもねむれないことがある。
70. なにかを考えている時、考えがまとまらなかつたり、はっきりしなかつたりすると、とてもイライラする。
71. どちらかという、「あきっぱい」ほうである。

72. みんなの「程度」が低いのは、閉口する。
73. なにかを思いついても、それが実際にできるかどうかを、まず先に考える。
74. 人に目立とうとして、いろいろなことをする時がある。
75. 話し合いの時など、自分の考えを自信をもっていえる。
76. いつも、いろいろな角度からものごとをみて、判断しようとする。
77. どちらかというとき、まわりの人や、まわりのものには、あまり関心がない。
78. むずかしい問題でも、なんとか解いてみせる自信がある。
79. なにかを考える時は、ありきたりの考えでは満足できず、もっと違った考えはないかどうか、考えてみる。
80. ゲームやスポーツなどで、うまくできないものには、あまり興味がわかない。
81. ものごとを細かく分析したり、検討したりするのは、にがてである。
82. やってみて初めて、「思ったよりもむずかしい」と思うことがよくある。
83. 悩みごとや問題が起きて、あまり深刻には考えないほうである。
84. なにかをする時は、似たようなことを、いろいろと考えてみる。
85. なにか考えごとをしていて、いい考えが浮かんだ時は、とてもうれしくなる。
86. 考えごとをする時は、常識にあまりとらわれなくて、考えようとする。
87. 自分で考えながらやるよりも、人から命令されてやるほうが、気が楽である。
88. 人から、「そそっかしい」とよくいわれる。
89. 変わったことや、めずらしいことをするのが、好きである。
90. 「覚えておかなければ」と思ったことは、あまり忘れない。
91. なにかをする時は、それまでにやったことのあるやり方でやるほうが、気が楽である。
92. 人の話からヒントを得ることが多い。
93. なにかをし始めると、時間のたつのをつい忘れて、夢中になってしまうことがよくある。
94. いろいろな考えを、実際に行動して、ためてみることがある。
95. 話し合いの時など、自分の意見と違う人がいると、つい反対したくなる。
96. 自分がした失敗について、すなおに反省することができる。
97. 自信たっぷりには反対意見がだされると、つい考えがぐらついてしまう。
98. のみこみは早いほうで、しかも正確である。
99. やろうとすれば、その時にしてしまえることでも、ついあとまわしにしてしまうことがよくある。
100. なにかものを作る時、ひとつひとつ作りあげていくのが、とても楽しい。
101. つまらないと思うようなことでも、よく覚えている。
102. 失敗するのを恐れて、目標を低くすることがある。
103. なにかを考えようとする時、「別の見方をすれば、どうなるかな」とよく考えてみる。
104. いろいろなことについて、自分なりの考えをもとうとする。
105. 「思い違い」とか「記憶違い」といったことがよくある。
106. 最後（結果）がどうなるかわからないようなことは、あまりやりたくない。
107. 興味をもっていることが、つぎつぎと変わる。
108. 実際に行動するよりも、頭の中で考えるほうが好きである。
109. 「ひらめき」は、いいほうだと思う。
110. 自分には、人に誇れるようなところは、ほとんどない。

付表2. エクセントリック傾向自己判定テスト

1. すべてのものについてもっとわかるようになりたい。
2. 人が言葉で何か言ったとき、ありありとした場面や像が「心眼」に浮かぶのが普通だ。
3. もし、他人がまちがったことを言っていたとしても、黙っていがちだ。
4. 会話で、一つの話題から次の話題にすぐかわることができない。
5. 自分が人とは違うということからくる感情は好きだ。
6. 成功するかどうかは単に一所懸命はたらくかどうかだ。
7. 単純な状況や考え方より、複雑なほうがずっと好きだ。
8. 自分のすきなようにふるまえるようになりたい。
9. 知らない人の集まりの中でも、自分の意見をおおびらに言い表すのはいやではない。
10. 人はたくさん金を稼げるかどうか気にするべきではない。
11. 自分よりすぐれていると思う人の前では、気後れする。
12. 自分の考えかたは、時代より一歩先を行っている。
13. 家族が私のことを、態度がちよっと変わっていると思ってもかまわない。
14. 一人にいる－自分だけの思考や夢想をするのが楽しい。
15. くだけた場では、一回に一つの話題をとことん話すほうが自然だと思う。
16. 自分が車を降りたところには、車を止めてはいけないと駐車場の管理人が言ったりすると、まず間違いなくその管理人と口論になる。
17. 自分の場合、欲しいものを手に入れるのは、運とは関係ない。
18. 私は自分本位のところが強いようだ。
19. 権威のある地位にいる人に盾つくのが好きだ。
20. 社会は、理性によって新しい習慣に向けて進むようになるべきだ。
21. 人は他の人々にもっと関心をもつべきだ。
22. 決まった仕事は、たとえそれが必要でないにもかかわらず、必ず最後までやるべきだ。
23. 個人の良心の導きは、たいていの人が考えているより重要である。
24. 私の観点は、少し極端かもしれない。
25. 時には、激怒するのも楽しい。
26. 自分の身にふりかかることは、普通、自分自身のしていることで、運命とか宿命とは無関係である。
27. あいまいなものごとを見聞きするのは耐えられない。
28. 自分がしたいことをするときには、自由だと思いたい。
29. 他人はよく、私の心をうまく変えてしまう。
30. ある人が、私のことを好きかどうかをはっきり区別するのは、難しいと思う。
31. 死についての冗談を言ってもかまわないし、一般に趣味として許容範囲だ。
32. 他人を困らせるようなことを言うのは控える。
33. 横柄で権威をもつ人をからかう冗談を、あからさまに言うのは楽しい。
34. 気まぐれは、わがままで最低のやりかただ。
35. いったんある仕事をしようとして決めてしまうと、その仕事に長いあいだこだわりすぎることがある。
36. それだけはしないでくれと言われると、それをしたくてしようがなくなることが多い。
37. 運命を信じたことが、自分にとって自ら下した決断より良かったと、後から思うことはない。

38. 自分の原則のせいで、人の邪魔をしたことがある。
39. 私のいいアイデアを、人が妬んでいると思ったことがある。
40. 哲学上、あるいは倫理上の問題については、権威ある人の見方が自分の意見と対立するときには、その見方と闘いたい。
41. 私は、知的活動にやたらと惹かれるところがある。
42. 私は、他人の気分や感情に敏感ではない。
43. 私は、他の人が型やぶりだと思うことをしたい。
44. 制服は、それが表す組織の一員であることに誇りを持たせてくれるから、制服を着るのは好きだ。
45. 個人の値打は、その人がいくらがんばっても、認められないままになることが多い。
46. 知合いでも長いあいだ会ってない人は、相手のほうから声をかけてこない限り、無視するほうだ。
47. 私よりよくわかっていない人からの命令を、実行しなければならなかったことが多い。
48. 私は、空想することが楽しい。
49. 人が私のアイデアを認めてくれることに比べれば、私のことを好きになってくれるかどうかはたいしたことではない。
50. 私の行動の個人的な原動力の一つは、世の中をより良い方向に変える手伝いをしたいということだ。
51. 普通とは違う生活様式を追い求めるのは、間違っている。
52. 刺激がほしいばかりに、やってはいけないことをすることが多い。
53. 私はすぐに、人のことでイライラする。
54. 私は、自分の感情を直接的にはなく、知性の枠の中で表現するほうが好きだ。
55. どんなに心配ごとがふりかかっても、それを自力で処理する。
56. 私は、現実とは現実として認めている。ただ、その見方が違っている。
57. 平凡は嫌いだ。
58. 他の人が難しいと思っているパズルや問題を解くのが好きだ。
59. 権威のある規則には従うべきだ。
60. 世間話をするのはつらい。
61. 成功した多くの人々よりも、私の望みは高い。
62. 実行できないんじゃないかと心配して、自分のいい考えを実際に用いるのをためらうことがある。
63. 夢は、未来を変えることのできる隠れたメッセージやシンボルをもたらす。
64. 狂気と悪は、同類である。
65. 人は、私が扱いにくい人間だと言う。
66. 私は自分の考えを、決まりきって、あたりまえで、古くさいものから根本的に引き離そうとしている。
67. 私の自分についての考えかたは、生活のしかたに強く表れている。
68. 普通と違う言葉を使ったり、飾った言葉使いをするほうが好きだ。
69. 厳しい規則や規定のもとで仕事をするのは、つらいと思う。
70. 人づき合いがいい。
71. 自分の身にふりかかることについて、自分の影響はほとんどないと感じる事が何度もある。
72. 話すときは、他の人よりも声が強くて大きい。
73. 深遠な霊的眞実を求めることには、興味はない。
74. 人とつき合わない。
75. 精神の力だけでは、悪い力や影響を避けることはできない。

76. 人と話すとき、話がそれていく傾向がある。
77. 架空のことを、普通ではしないほど詳しく思い描くことができる。
78. 私は、現実を解明したいという欲望につき動かされている。
79. 自分が関心のある様々な思想やテーマについて、偉い人たちがどう考えてきたかということを見つけだすのが好きだ。
80. 自分自身で決断したい。
81. 新しく変わったことをするのが好きだ。
82. 賭けに出るより安全に行くほうがいいと思う。
83. あらゆる種類のものごとについて、独自の考えをもっている。
84. 好奇心は、私の生活において重きをなしている要素だ。
85. 他人のやりかたを模倣することが多い。
86. 自分の考えが仲間や知り合いの考えよりいいと思っている。
87. 私は、他の人の助けやアドバイスという形で、それらの人々に大きく依存している。
88. 他の人々の考えたことを新しく組みかえたり、作り直したりするのが楽しい。
89. 私はたいていの人より、自分の身の回りにある不自然さに敏感だ。
90. 家族や友人は、私がぼんやりしてうわの空だと思っている。
91. 明快な指示に従いたい。
92. 決まりきった答を見つけるより、微妙な区別をつけることが好きだ。
93. 自分自身で真相を知りたい。
94. 知り合いがおもしろそうな話をしているときに、そこへ割って入って、自分の意見を述べる傾向がある。
95. 自分に期待されていることだけをする。
96. 結果がどうなるかを見たいがためだけで、何かをしたいときがある。
97. 不満な状況で文句をいうためにたちあがることができる。
98. 言いたいときには、普通、そのことについてまず慎重に考える。
99. 多くの点で他人より劣っていると思う。
100. やりかたに固執するよりも、そつのないほうがいい。

付表3. MSC-T

1. 目立とうとして、色々なことをする時がある。
2. どちらかという、「負けずぎらい」のほうである。
3. 最後（結果）がどうなるかわからないようなことは、あまりやりたくない。
4. 仕事などは、てきぱきと片付けるほうである。
5. どちらかという「あきっぽい」ほうである。
6. 関係がないと思われることでも、結びつけて考えてみようとする。
7. 人がいたりしたりすることについては、かなり公平に判断できると思う。
8. 変わったことや、めずらしいことをするのが、好きである。
9. 私は、他の人が型やぶりだと思ふことをしたい。
10. なにか考えごとをしていて、考えがまとまりそうな時には、なにがあっても途中でやめたりしないで、考え続けようとする。

11. むずかしいことや悩みごとは、一度に考えつめないで、少し間をおいてから、考えるようにしている。
12. 自分でも「変わっているな」と思うような考え方をすることがよくある。
13. 話し合いなどでは、自分の考えを主張するよりも、人の意見に従う場合が多い。
14. その時の気分によって、ものごとを判断してしまうくせがある。
15. 自分のものの見方や考え方、判断の仕方には、かなりの自信がある。
16. なにかを考えようとする時は、つい細かなことばかり考えてしまう。
17. なにかを考えている時、考えがまとまらなかったり、はっきりしなかったりすると、とてもイライラする。
18. なにかをする時は、一度にいろいろなことに手を出さないで、一つのことを終えてから次に移る。
19. なにか思いきったことがしくて仕方がない。
20. 悩みごとや問題が起きると、その原因や理由がどこにあるかを、よく考えてみる。
21. 自分の考えよりも人の考えのほうが良いと思うことがよくある。
22. はじめてのことをする時には、とても緊張する。
23. いつも、色々な角度からものごとをみて、判断しようとする。
24. やろうとすれば、その時にしてしまえることでも、つい後回しにしてしまうことが、よくある。
25. 色々な考えを、実際に行動して、試してみることがある。
26. みんなでなにかをする時は、意識して、他の人とは違ったやり方や考え方をしようとする。
27. なにかを考えついた時には、どのようにして考えついたかを、はっきりさせようとする。
28. ものごとを細かく分析したり、検討したりするのは、苦手である。
29. 話し合いの時など、自分の考えを自信をもっていえる。
30. なにかを作りあげている時、なかなか納得できるものができない場合が多い。
31. 実際に行動するよりも、頭の中で考えるほうが好きである。
32. 気分転換は、かなりうまくできるほうである。
33. 解けそうもない問題ほど、解きたくなる。
34. 新しく変わったことをするのが好きだ。
35. 運命を信じるより自分が下す決断のほうを信じる。
36. 色々なことについて、自分なりの考えをもとうとする。
37. 人から、「慎重すぎる」とよくいわれる。
38. なにかものを作る時、一つ一つ作り上げていくのが、とても楽しい。
39. やらなければいけないことは、人から言われる前に、するほうである。
40. なにかを解いたり、作ったりしている時が一番楽しい。
41. やり始めたことは、最後までやりとおす自信がある。
42. なにかを思いついても、それが実際にできるかどうかを、まず先に考えてしまう癖がある。
43. 話し合いの時など、自分の意見を強く主張するほうである。
44. よく人と意見をかわす。
45. 人がやらないことや、やれないことをやるほうが、やりがいがある。
46. 平凡は嫌いだ。
47. 人の話を「うのみ」にすることがよくある。
48. なにかをする時は、似たようなことを、色々と考えてみる。